

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	673000642
法人名	特定非営利活動法人 大地
事業所名	認知症高齢者グループホームなごみ
訪問調査日	平成 19 年 10 月 12 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 10 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	673000642
法人名	特定非営利活動法人 大地
事業所名	認知症高齢者グループホームなごみ
所在地 (電話番号)	山形県鶴岡市羽黒町赤川字熊坂47番3 (電 話) 0235-62-4331

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年10月12日	評価確定日	平成19年12月10日

【情報提供票より】(平成19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	12 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 15.0 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/改築
建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	13,500円 他実費
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 950 円		

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.44 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	茅原クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

陽あたりの良い美しい花壇と広い畑を利用した親しみのある地域連携と世代間の活発な交流が意欲的に図られてきており、また、利用者の要介護度の変化に合わせて利用者や職員の安全面にも考慮して浴室内に移動用リフトを設置すること、外部研修の積極的な受講と研修生を受け入れて業務の活性化につなげていくことなど、「利用者にとってほんとうに居心地のよいホーム」の実現を目指した「ハード面」と「ソフト面」の両方向からのアプローチが行われてきています。
すべての利用者の家族に運営推進会議の構成メンバーになってもらい会議を2ヶ月ごとに継続して開催していること、地元の農業高校で栽培した花の苗1,000本の植付け作業を高校生や老人クラブの方々と一緒に行っていることなど、「人と人が会ったり、話したり、関わったりする大切さ」をどんなときにも忘れずに、さらに質の高いケアサービスの提供を目指すホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>トイレの仕切りがカーテンになっている点については、運営推進会議の中で利用者家族にも問いかけたところ、「トイレを使用している利用者の足元が職員から見えた方が安心であり、ドアよりもカーテンの方が安全面からは良いのではないか」という意見もあったため、トイレの仕切りはカーテンを引き続き用いることにした。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員一人ひとりが自己評価を自己点検の機会ととらえており、利用者支援の質の向上に活かす素材として活用している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者の全家族が会議の構成メンバーの中に入っており、約半数の家族が出席して2ヶ月ごとに開催されている。また、評価結果、毎月の行事、情報提供票の内容など、最新の情報が毎回報告されており、欠席家族への会議資料の送付も毎回行われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>通常の面会及び運営推進会議の際に、積極的に家族の意見や要望を把握するように働きかけており、玄関へのカレンダー設置や美容室の利用など、家族から出された要望にきめ細かく応えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の農業高校で栽培した花の苗1,000本の植付け作業を高校生や老人クラブの方々と一緒に行ったことがテレビニュースで報道されている。また、神社の祭り、地区芋煮会、敬老会への参加に加え、毎月発行される広報が区長達の理解と協力により、全戸に配布されている地区もある。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関係性を大事に利用者が生活できるよう、ホーム独自の理念がある。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の心得として、なごみ目標「心に太陽を輝かせる」を掲げ、全職員が毎日唱和して日々の具体的なケアにも取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の農業高校で栽培した花の苗1,000本の植付け作業を高校生や老人クラブの方々と一緒に行ったことがテレビのニュースで報道されている。また、神社の祭り、地区芋煮会、敬老会への参加に加え、毎月発行される広報が区長達の理解と協力により、全戸に配布されている地区もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価を自己点検の機会ととらえており、利用者支援の質の向上に活かす素材として活用している。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の全家族が会議の構成メンバーの中に入っており、約半数の家族が出席して2ヶ月ごとに開催されている。また、評価結果、毎月の行事、情報提供票の内容など、最新の情報が毎回報告されており、欠席家族への会議資料の送付も毎回行われている。		

山形県 認知症高齢者グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護相談員の受け入れや市主催の口腔ケア・栄養を主体とした研修に参加するなど、市の担当者との連絡や連携に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>担当者が毎月利用者の暮らしぶりを便りに記載し、預かり金としホームが一時立替払いをしたものがある場合は、領収書のコピーを毎月送付して報告している。また面会時にも随時報告されている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>通常の面会及び運営推進会議の際に、積極的に家族の意見や要望を把握するように働きかけており、玄関へのカレンダー設置や美容室の利用など、家族から出された要望にきめ細かく応えている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>全職員がきめ細やかな支援ができるよう担当制にし、ユニット全体で支援できるよう、異動は最小限(毎年1名限度)にするようにしており、利用者にはダメージが出ないように配慮されている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>介護実践者研修、新人職員研修などにユニットより1名づつ参加しており、内容の報告は職員会議で行われている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム交換実習を昨年より受け入れ、今年から派遣が実施されており、交換実習としてホームに来た他ホームの職員が県内の大会で発表する予定があり、実習を受け入れた職員の側にも刺激と励みを与えている。また、市内の同業者で構成される部会にも参加している。</p>		

山形県 認知症高齢者グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	枝豆はじき、干し柿づくり、ハーブ摘み、野菜栽培などを一緒に行ったり、利用者の短歌の作品を掲示したりしながら、利用者と職員が共に支えあう関係ができていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	レクリエーション活動、好みに合わせた飲み物の提供など、利用者自身が選択できるように働きかけており、意思表示が困難な利用者には、家族からの情報も活用しながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	体力低下が懸念される利用者には、家族の意見も踏まえながら、いつ、誰が、どのように支援するのかを記載した介護計画が作成されている。また、看護師や医師の意見も聞きながら、全職員がユニット会議を毎月開催して検討した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しが行われ、体調不調がある利用者については見直しから1ヶ月後に再び検討会を行うようにしており、現状に即した介護計画の見直しや再作成がなされている。		

山形県 認知症高齢者グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	協力医療機関に加え、眼科、皮膚科、心療内科の協力が得られ、ホームで通院介助の他、家族の面会時に通院している。また、利用者の訴えや要介護状態に応じ、家族の了解も得たうえで訪問診察を利用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できる だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化した場合の対応に係わる指針に基づき、家族、医師と相談して方針を決め、全職員で共通理解をしている。また、指針の内容は運営推進会議でも報告されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	「心に太陽を輝かせる」を目標に掲げながら、笑顔で明るい言葉かけがなされており、また、利用者が個室トイレの使用を希望する場合は、職員用トイレを使用してもらうなどの配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人 ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が得意とする畑での野菜栽培、草むしり等は一緒に行うが、声がけを強制と受け取られないようにも配慮しながら、無理強いせずに、一人ひとりのペースや個性を大切にしながら接するようにしている。		

山形県 認知症高齢者グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共にホームの隣にある畑で収穫した野菜を使って調理すること、お寿司やラーメンを食べに出かけること、また、誤嚥予防と消化促進に効果があるとされている、ホームオリジナルの「嚥下体操」も毎食前に取り入れることなど、楽しみながら食事ができるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者がより安全に、楽しく入浴できるように、片方のユニットには簡易リフトも追加設置し、一人ひとりの状態やニーズに合わせた入浴支援が行われている。また、入浴できない場合でも足浴や衣類の交換が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、洗濯物やおしぼりの整理、短歌会への出席、目的地からちょっと遠回りしてのドライブ、マジックショーや大正琴を楽しむなど、一人ひとりが楽しみ、その人らしくいられる場面づくりを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事委員会で計画した季節ごとの外出の機会(お花見など)に加え、通院や買い物に出かけた際に生まれ育った町並みを眺めてから帰る、花火大会を楽しむ、温泉や山の雰囲気味わえるドライブコースを設けるなど、事業所の中だけで過ごさないための工夫が多くみられる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	鍵をかける生活の弊害が理解されており、事務職員を含めた全ての職員による見守りが行われており、日中は施錠せずに過ごすことができている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルの作成、周辺地域の自治組織への働きかけ、年2回の日中の避難訓練は行われているが、夜間の災害発生を想定した対応はまだ行われていない。	○	昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけられるように、夜間の災害発生を想定した対応についての取り組みも期待される。

山形県 認知症高齢者グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態や食欲に合わせ、食事形態の工夫や高カロリー食の提供などが個別に行われており、摂取状況が個人ファイルに記録されている。また、スムーズな食事摂取ができるように「嚥下体操」を食事前に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、食堂、トイレなどの共用空間は広々としており、また、冬の間も利用者が快適に過ごせるように床暖房が施されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真、桐タンス、自作の書や絵、賞状、遺影など、その人らしい思い出の品がある居室になっている。		